



登山を楽しむ参加者

赤や黄に色づいた山々を満喫

10月19日、紅葉が美しい氷ノ山や鉢伏山に登山する「氷ノ山鉢伏山紅葉登山大会」(同実行委員会主催)が開催されました。好天に恵まれ絶好の登山日和となったこの日は、市内外から約600人が参加しました。

この登山大会は、健脚向きと初心者向きの4コースが設定され、気軽に登山を楽しめると好評を得ています。八チ高原から鉢伏山を経由して東鉢伏高原などを巡る初心者向きコースの参加者は、午前9時に八チ高原交流促進センターを出発。コース中には急勾配のポイントもありましたが、時折足を止めて壮大で美しい景色を眺めるなど、それぞれのペースで約4時間の登山を楽しみました。



多種多彩な「きのこ」を採取

きのこの採取を通して自然にふれあうとともに、秋の味覚を満喫する大屋公民館教室「きのこ講座」が10月5日、加保坂森林公園で開催され、約30人が参加しました。

同講座では、講師に横山了爾さん(指保郡)と鳥越茂さん(宍粟市)を招き、初心者と経験者の2グループに分かれてきのこを探索。注意深く足元を観察しながら次々ときのこを採取しました。採取後、講師が食べられるものと毒きのこに選別。結果、50種類のきのこが採取され、そのうち12種類が食べられるものでした。

その後、採取したきのこで作ったきのこ汁を参加者全員で味わい、講師からきのこに関する説明を受けました。

参加者は「興味深い話が聞け、きのこ汁もとても美味しかった」と満足そうに話しました。



採取したきのこの選別作業

秋祭りで村芝居を好演

10月4日、吉井区の井上神社境内で行われた秋祭りの宵宮で、同区の有志で構成する吉井ソフトボール部による村芝居が上演され、区民をはじめ多くの観客を楽しませました。

この村芝居は、同神社に明治中期に建設された芝居堂があり、地域の娯楽として村芝居を楽しんでいたことから、秋祭りを盛り上げようと昭和56年に吉井ソフトボール部が中心となって復活させたものです。また、世代を越えて地域のコミュニケーションづくりにも役立っているそうです。

24回目となる今回の演目は、部員が台本を書き上げた「吉良の仁吉 血煙り荒神山」。顔なじみの役者によるアドリブを交えた好演に、会場には笑い声と拍手が響き、盛り上がった宵宮となりました。



村芝居を好演する吉井ソフトボール部